

心が動かされる時に始まる

校長 Sr.大山 江理子

5月は創立日祝日の月、子どもたちの成長の時です。子どもがのびのびと何かに熱中して打ち込んでいる姿はたのしいものです。言われなくても、自分から取り組んでいるとしたら、それもたのしい。とは言え、なかなか大人の思う通りに子どもたちは動いてくれるものとも限りません。子どもたちとの関わりの中で、子どもがおもしろいと感じるものと、大人が思うことと異なっているものだと感じさせられることもしばしばあります。



朝の登校時に、学校から目黒通りまで児童・生徒の様子を見ながら歩いています。色々な姿に出会います。ファーストステージの子どもたちの通るソフィアバラホール前の坂道では、時々子どもたちがあつまって何かを一心に見ていることがあります。ある朝、子どもたちが植木の前に立ってじっと見ているので、たずねてみると、木の枝先の芽がとてもかわいらしいと感嘆しています。なんだそんなことだったのか、と思ってしまうようになりますが、よく見てみると確にかわいらしい。



また、背の高い木の枝の下で何かをじっと見ている子どもたちに出会ったこともあります。私には初めは何も見えませんでした。子どもたちが何か降りて来たと言ってしまうので、じっと見据えると、見えました。クモの糸のような、目に見えない糸で何かがつり下がって降りてきていました。そこで、一緒に見ていると、ついにそれは地面の近くの木の枝に着地しました。子どもたちは、何だろうと言って、「○○かなあ？」と考えています。こんな状況に出遭ったことはありませんか？実は、このようなときの

関わり方はむずかしいものです。

このようなとき、子どもたちは大人からすると見当違いに思えることを言っていることがあります。しかし、それを受けて、「違います、××ですよ」と言ってしまうと、子どもたちは途端に好奇心を失ってしまいます。子どもたちの思考は妨げられてしまいます。大人はつい正しい答えを教えたくてしましますが、子どもたちは必ずしも正解を求めてはいません。先ほどの何かは、虫の幼虫です。しかし、子どもたちはその虫の名前を知ることよりも、上から糸で降りてきたのはなぜか、それを知りたい。なぜ降りてくるのかがとても不思議。知らないことに出遭ったことに心を動かされています。

指示されたり、命じられたりして動いているときは、心から動いているとは言えません。しかし、自ら進んで動いているとき、心が動かされています。子どもたちの主体性を育てるには、どのように子どもたちの心を動かしていくか問われます。それにはまず、子どもたちの心が動かされているそのときに気づくことから始まりそうです。お子さんの心が動かされているときを、ぜひご家庭でも気づいてあげてください。そこに親子の対話がきっと始まります。

マリア様の月のプラクティス

勇気を持って、私から

～カトリックの洗礼、初聖体をお受けになった方は、連絡簿でお知らせください～

学びの主役は子どもたち

副校長 中塩 百合

数週間前まで構内の木々は芽吹きの時でしたが、あっという間に緑溢れるキャンパスになり、花水木やつつじの花々も皆の目を楽しませてくれています。春風に誘われて、子どもたちも外で元気に遊んでいます。自然豊かなキャンパスで、これから様々な活動が活発に行われることでしょうか。今年度も聖心だよりを通して学校の様子をお伝えします。

新たな関わりをつくることに一生懸命な3週間を過ごし、子どもたちは少しずつクラスや先生方にも慣れ、教室に笑い声が響いています。各教室を回ると、学習に意欲的に向かう子どもたちの姿があります。先日本校への入学を希望なさる方々に第一回授業公開を実施しましたが、先生の問いかけや友だちの考えに耳を傾け、積極的に自分の意見を述べ、皆で授業をつくり上げている姿や掲示物の字の美しさを多くの方に褒めていただきました。聖心の教育で培われる力を再認識する場となりました。上級生の授業内容の面白さに言及する方もあり、高度なことを楽しく学べる環境を今年度も子どもたちと共に一つ一つ行きたいと思えます。学びが本物となって身につくためには、子どもがどれだけ主体的、能動的、意欲的に学んでいるかが重要です。やらされていると感じている段階では、知識として知っていることの範囲を超えられず、学んでいることの楽しさや、広げ深めていく面白さには行きついていないのでしょうか。授業の中で主体的な学びを促すには、教員が脇役に徹することが必要とも言われます。アメリカでは教員を「ファシリテーター」と呼び、指導する立場ではなく、子どもたちの意見を引き出し、整理しながら進行していく役目を担う人とされています。これからの時代、日本の教室も自ら子どもたちが課題を見つけ解決していく姿への変容が期待されます。

先週、ニュージーランドの姉妹校 Baradene College から約50名の生徒が音楽交流で来校しました。生徒たちはホストファミリーとして手を挙げてくださったご家庭に1泊しました。英語でのコミュニケーションは困難を伴ったようですが、うまく行ったことも行かなかったこともその経験を通して、多くの子どもたちがもっと英語を勉強して話せるようになりたいと強く願ったようです。内発的な動機付けは、子どもたち自身が学ぶ意義を理解することに繋がり、主体的な学びへと導きます。体験は重要ではありますが、体験することに意義があるのではなく、そこで何を感じ考えるかが重要です。自己の内面との対話には、「振り返り」の時間が生きてくることでしょうか。ホストファミリーに手を挙げてくださった12名の6年生の保護者の皆様、ご協力に感謝申し上げます。この経験は子どもたちに大きな宝物を残してくれたようです。



5月の行事予定

1日(水)	遠足(5・6年)	16日(木)	運動会総練習(午前)
2日(木)	遠足(1～4年)	20日(月)	運動会総練習予備日
3日(金)	憲法記念日	21日(火)	尿検査2次予備日
4日(土)	みどりの日	22日(水)	聖マグダレナ・ソフィアお祈り会
5日(日)	こどもの日	24日(金)	運動会準備(午後)
6日(月)	振替休日	25日(土)	聖マグダレナ・ソフィア祝日 運動会
8日(水)	運動会全体練習(1・2限)	26日(日)	(雨天予備日)
9日(木)	運動会全体練習予備日 5年保護者会	27日(月)	(雨天予備日)運動会代休
10日(金)	4年保護者会	30日(木)	聖母戴冠式朝礼(1～6年)
13日(月)	1年・転入・編入保護者会	31日(金)	家庭学習日
14日(火)	尿検査2次		
15日(水)	泉の会代表幹事会		